

# プレス発表資料

## 世界ジオパークネットワークへの加盟推薦地域決定

平成 25 年 9 月 24 日作成

日本ジオパーク委員会

注：24日には委員会の議論が長引いて会議が遅れ、修正が不十分なまま記者会見で本資料を配付しました。そのため、会見場で口頭修正した内容をもとに、修正をしています。

- 今年、以下の地域の世界ジオパークネットワーク（GGN）への新規加盟を推薦する。

### 阿蘇

- 阿蘇ジオパークは昨年度の審査で、解決すべき問題があり推薦保留となっていた。指摘事項に対するアクションプランが今年3月に提出されたことをうけ8月に現地審査を行い、本日の第18回日本ジオパーク委員会で推薦が決定した。

## ■ 世界ジオパーク申請の推薦が決まった地域の特徴 ■

### 阿蘇

地球上でこれまで繰り返し発生し近い将来また発生することが確実なカルデラ火山噴火について、噴火に伴って噴出する火砕流、カルデラ地形の形成とその変化、そして現在も続く火山活動を体感することができる。また、人間がカルデラ火山の地形や環境と数万年間にわたってどのようにつきあってきたかを知ることができる場所でもある。国際的に通用するジオツーリズムの育成等、解決すべき課題はまだ多いが、昨年日本ジオパーク委員会が推薦保留と判断した際に不十分であると指摘した課題が1年間でかなり解決しており、さらに来年の現地審査までに改善が見込めると判断したことから、推薦することとした。

## ■ 世界ジオパーク申請の推薦が認められなかった地域の特徴と認められなかった理由 ■

### 霧島

霧島ジオパークは日本ジオパークに2010年に認定されて以来、この2年半で魅力あるジオパークに育ってきた。特に、2011年1月末からの新燃岳噴火に際しては、ジオパーク推進協議会が中心となって、ハザードマップの作成や噴火災害対策に取り組んだことにより、関係市町の連携が深まりつつあることは評価される。

その一方で、カルデラと霧島山の関係や、火山と人間の歴史・文化とを絡めたストーリー作りが

遅れており、ジオガイドや説明看板の内容にも不十分さがある。ジオパークを目的に霧島を訪れた人が、効率よくジオパークを学ぶ・楽しむ状況が十分に整備されておらず、ジオパークとして観光客の受け入れ態勢も不十分である。また、近年、世界ジオパークネットワーク（GGN）メンバーに求められている国際的な活動実績が不十分である。

これらのことを踏まえ、霧島ジオパークは近い将来に世界ジオパークとなる可能性を秘めているものの、世界ジオパークネットワーク加盟申請は時期尚早と考え今回は見送りとする。

## 白山手取川

大陸時代の基盤が隆起しその上に活火山がある山地から、川が作った溪谷や扇状地が広がる。侵食から堆積への遷移を間近で観察できるジオパークであり、人々は変動する大地の特性による恩恵を意識しながら最大限に利用して生活している。エリア内にはこれら自然科学的特性およびそこから育まれた社会科学的特性を見ることができるといえるサイトが複数ある。サイトのいくつかには英語対応された案内看板が設置され、ビジターセンター等も複数箇所にある。ガイドも複数団体存在し、白山市観光ボランティア協会がそれをまとめながら活動を実施中である。

しかし、ジオパークとしてのテーマや世界ジオパークに求められる活動など、現時点では、改善すべき点が多くあり、活動実績が不足している。白山市内にある事務局には専門的知識を有するスタッフを含めて運営体制が十分であり、市民の意欲もあるため、今後の発展が期待される。これらのことを踏まえ、白山手取川ジオパークは近い将来に世界ジオパークとなる可能性を秘めているものの、世界ジオパークネットワーク加盟申請は時期尚早と考え今回は見送りとする。

## アポイ岳

地下深くのマンツルの世界に触れ、ダイナミックな大地の活動を体感できるジオパークであり、「かんらん岩」と、この地域に暮らす人々とのかかわりを深め、コミュニティの活性化をめざす取り組みや研究活動を続けてきた実績が評価できる。しかし、この地域の地学的見どころを植生などと結びつけるなどしてわかりやすく語り切れていないこと、地形や先住民文化（アイヌ文化）などの、地質と植生以外のジオパークの構成要素についての調査研究の実績とジオパークとしての活用が不十分であり、より一層の努力が求められる。

このように、アポイ岳ジオパークは近い将来に世界ジオパークとなる可能性を秘めているものの、改善の余地が多くあるため、今後の展開を期待して、今回は世界ジオパークネットワーク加盟申請を見送る。

以上

# 日本ジオパークネットワークへの新規加盟地域決定

平成 25 年 9 月 24 日

日本ジオパーク委員会

注：24日には委員会の議論が長引いて会議が遅れ、修正が不十分なまま記者会見で本資料を配付しました。そのため、会場場で口頭修正した内容をもとに、修正をしています。

- 今年、日本ジオパークネットワーク（JGN）への新規加盟地域として以下の地域を認定した。  
三笠、三陸、佐渡、四国西予、おおいた姫島、おおいた豊後大野、桜島・錦江湾
- 4月に日本ジオパーク加盟認定地域を公募したところ10地域から応募があり、書類審査、公開プレゼンテーションと質疑応答、現地審査を経て本日の第18回委員会で上記7地域を決定した。
- これにより日本ジオパークは26地域、世界ジオパークが6地域、日本ジオパークネットワーク加盟地域は併せて32地域となった

## ■ 新たに日本ジオパーク加盟認定された地域の特徴 ■

### 三笠

アンモナイト等の化石や石炭、断層変位地形など北海道の大地の生い立ちを体感できる見どころが多く有る。また、日本を代表する炭田であった石狩炭田の炭鉱遺構群、炭鉱とともに歩んだ文化や鉄道など、石炭とともに歩んだ人々の歴史に触れることが出来る場所でもある。充実した博物館やジオツアーを通じて来訪者がジオパークを楽しめるようになっている。以上のように、日本ジオパークネットワークのメンバーにふさわしいと認め、加盟を認定する。

### 三陸

5億年の地球の歴史が作った景観を楽しみ、これまでの震災の記憶を後世に伝え学ぶジオパークである。大津波によって破壊された災害遺構、見事なリアス式海岸や段丘地形、世界屈指の好漁場と沿岸で育まれた豊富な海産物など、大地の生い立ちと深く関わってきた三陸の人々の暮らしぶりも魅力である。三陸復興国立公園やそこを縦断するみちのく潮風トレイルなどとの連携も十分に期待できる。まだ活動が不十分な点もあるが、津波災害からの復興を支援するという観点も含め、日本ジオパークとして認定することとした。

### 佐渡

世界文化遺産の登録を目指す「佐渡金銀山」、世界農業遺産（GIAHS）に国内で初めて登録された「トキと共生する佐渡の里山」をはじめとする、特徴的なジオ多様性を見ることができ、佐渡の形成史と生態系や歴史・文化のストーリーが魅力的である。特に、学校教育、社会教育における取組と調査・研究活動は進んでいる。以上のように、日本ジオパークネットワークのメンバーにふさわしいと認め、加盟を認定する。

## 四国西予

当地域は、日本列島の地質の成り立ちの謎を解く鍵のひとつとなる、4億年以上前の地層や岩石を含む「黒瀬川帯」という西日本に帯状に分布する地質体の研究が最初に行われた地である。東西に西予市の地形は、東西に延びる黒瀬川帯とそれに沿って細長く続く各種の地層・岩石の影響を受けてきている。こうした地形・地質が各種ツアーに活用されはじめている。また、ジオパークになる前から地域の活動への住民の参加意識が高く、大学との連携もおこなわれており、今後の活動により親しみやすいジオパークになることが期待される。以上のように、日本ジオパークネットワークのメンバーにふさわしいと認め、加盟を認定する。

## おおいた姫島

国東半島の沖に浮かぶ多数の単成火山を持つ島で、西日本各地の考古遺跡で出土する石器の主要産地である黒曜岩の断崖（国指定天然記念物）がある。海蝕崖に多様な地層が観察できる事も特徴である。丘陵をなす地層は激しく褶曲し、瀬戸内海が陸地であった頃の名残であるゾウの化石、藍鉄鉱などを包含する。集落は主に砂州に立地し、火口跡や潟湖を活用した車えびの養殖が基幹産業となっている。クルーズ船で海からの美しい景観を楽しむこともできる。以上のように、日本ジオパークネットワークのメンバーにふさわしいと認め、加盟を認定する。

## おおいた豊後大野

約1億年前の地層群を貫くマグマがつくった祖母山の美しい景観や、9万年前の阿蘇火山の巨大噴火があったからこそ生まれた滝や棚田群、井路、石橋群、磨崖仏など、巨大噴火と人々との関わりが体感できる。郷土愛あふれるガイドの解説を聞けば、神楽や獅子舞などの独自の文化がこの地で培われてきた背景に触れることができる。以上のように、日本ジオパークネットワークのメンバーにふさわしいと認め、加盟を認定する。

## 桜島・錦江湾

鹿児島市街地を含めた桜島周辺は桜島における火山活動の中にあり、地域住民は桜島を強く意識して生活している。現在まで、長きにわたる火山との共生により育まれた個性的な文化や歴史、生活を反映したサイトは、自然科学的なサイトとともにエリア内に豊富にあり、それらを活用したツアーなどのアクティビティがすでに展開されている。ガイド付きツアーで複数のジオサイトを巡ることでメインテーマである「火山と人と自然のつながり～海まで広がる活火山の営みと都市の共存～」を理解することができる。以上のように、日本ジオパークネットワークのメンバーにふさわしいと認め、加盟を認定する。

## ■ 日本ジオパーク加盟を保留した地域の特徴と保留の理由 ■

### とちぎ鹿追

約 4-1 万年前の然別単成火山群の火山活動によりせき止められた然別湖の、大変よく保存された自然をさまざまな角度から楽しめる地域である。小中高一貫教育による「新地球学」という優れた教育プログラムやプロのネイチャーガイドによるツーリズムも展開されており、それらの活動は既存の日本ジオパークの活動と比べても優れている。ただし、エリア全体をジオパークとしてマネジメントする運営体制、住民のジオパークへの参加、然別湖以外のジオサイトの活用がなお必要であり、認定保留として改善を確認できたら認定したい。

## ■ 日本ジオパーク加盟を認めなかった地域の特徴と不認定の理由 ■

### 美祿

石灰岩、大理石、無煙炭、銅などの恵まれた地下資源を、それぞれの歴史とそれに関わってきた人々のつながりに結び付けて「“白” “黒” “赤” を巡る旅」として学び楽しむことができる。一方、それらを一体のジオパークとして発信するための工夫が必要である。また、ジオパークの考え方は地域にあまり浸透しておらずジオパークへの住民参加は発展途上であり、大学との連携は準備段階にとどまり、拠点施設、パンフレット、Website、解説板等のジオパークを認識できる整備は進んでいない。以上のことから今回は日本ジオパークとして認定しない。

### 本部半島

青い海とサンゴ礁の素晴らしい景観をはじめ、約 2 億年前と現在の石灰岩形成の場を観察できるのが特徴。また、急峻なカルスト地形を巧みに利用した今帰仁グスクなど人々と大地の関わりや歴史を学べる場所もある。ジオパーク認定ガイドや地元ガイドが活動している。現在の運営組織は、地質的連続性を重視して決めたジオパークの範囲内を一体的に運営するには力不足で、一部に熱心な住民はいるもののジオパークの地域住民への浸透も不十分で、地域全体としてジオパークに取り組む形がまだ見えていない。したがって、今回は日本ジオパークとして認定しない。

以上